

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
河辺・押入地区

令和2年2月

岡山県津山市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	交通事故件数	件/年	12	9	6	確定 見込み	△	あり なし	●	5	R1年11月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	市道T37号線外4路線の路面標示、カラー舗装の整備、市道T19号線、T32号線の道路拡幅、新設によって交通事故件数の削減につながった。
指標2	歩行者空間整備に対する満足度	%	53.0	47.7	2.5	確定 見込み	△	あり なし	●	2.6	R1年11月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	市道T37号線外4路線の路面標示、カラー舗装の整備、市道T19号線、T32号線の道路拡幅、新設によって、住民の安心・安全な歩行空間の確保への満足度向上につながった。
指標3	浸水対策面積	ha	38.3	23.5	21.9	確定 見込み	○	あり なし	●				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	河辺第二雨水幹線、排水ゲートの整備によって、河辺地区における浸水対策が必要となる面積の削減につながった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	なし				確定 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2	なし				確定 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3	なし				確定 見込み								<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	人と車の交通を体系的に分離した整備	交通事故の多発等を防止するため、交通事故の発生状況を調査した。	当該地区内での交通事故件数は減少しており、当面は、事故の発生状況を注視することとした。	事故の発生場所や要因を見極め、必要に応じてカラー舗装など道路交通の安全に寄与する事業を検討する。
	バリアフリーに配慮した歩行空間の安全確保	関係者で歩行空間(通学路等)の安全点検を行った。	点検結果を共有することで、事故防止に繋がった。	バリアフリー対策は、ソフト対策も含め、計画的に実施していく必要がある。また、通学路交通安全プログラムなどを活用し、点検を継続的に実施する必要がある。
	豪雨時における浸水対策の促進	浸水対策を継続して実施するため新たな計画を検討を進めた。 地域住民にハザードマップを配布した。	浸水対策に関する事業計画を策定し、計画的に事業実施することとした。 浸水想定エリアを把握することで防災意識が高まった。	浸水対策事業は、効果的かつ計画的に実施する必要があるが、そのためには安定した予算の確保が課題である。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	継続的な交通安全活動の実施	地域で交通安全教室を実施するなど交通安全運動を推進した。	交通マナー向上への意識が高まった。	地域の交通事情に即し、継続的な交通マナー啓発の活動に取り組む必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画

かわなべ おしいれ
河辺・押入地区

おかやま つやま
岡山県津山市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	おがや野けん 岡山県	市町村名	つやまし 津山市	地区名	かわなべ ぬいれちく 河辺・押入地区	面積	84.3 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 29 年度				

目標
地区内交通の円滑化や安全対策及び雨水排水対策による都市機能の強化
目標1 : 著しい交通量の増加に対する交通の円滑化や事故防止対策、安全な歩行空間の確保を行い、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。
目標2 : 地区内に不足している雨水排水路を整備し、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況
<ul style="list-style-type: none"> 河辺・押入地区は津山市街の東部に位置し以前から田園地帯として発展していたが、昭和49年の中国自動車道津山I.Cの開設を機に急速に市街化が進んだ地区である。 交通の利便性の良さから同地区には工業施設や商業施設、医療施設等の立地が進み、平成8年の大型複合商業施設の出店を機に更なる商業施設等の集積が進み同地区への来訪者が飛躍的に増加している。 さらに、平成11年には県北の医療を担っていた国立療養所津山病院から経営移譲を受けた津山中央病院が開院し、災害拠点病院あるいは第三次救急救命医療施設として広域医療の重要な役割が期待されている。 今後も津山市の東の玄関口として、更なる発展が期待される地区である。
課題
<ul style="list-style-type: none"> 近年、本地区に医療施設や教育施設並びに工業・商業施設が急速に集積した結果、地区内に流入する交通量が飛躍的に増加し交通渋滞や交通事故の頻発により歩行者等が危険にさらされていることから、地区内の交通の円滑化や事故防止対策、歩行者の安全で安心な歩行空間の確保が緊急の課題となっている。 また、本地区では急速に市街化が進んだことによる遊水池の減少により豪雨時には浸水被害も発生していることから、地区内の適切な雨水排水対策も緊急の課題である。 そこで、本地区の交通円滑化や安全・安心な歩行空間の確保に資する道路として計画されている(都)河辺高野山西線【岡山県事業】が平成23年度から事業着手されたことに併せ、一体的に機能する広域医療施設等へのアクセス道路の整備や幅員狭小・線形不良等に起因する交通危険箇所の改善、さらには主要な歩行経路の安全確保並びに雨水排水対策を実施することで誰もが安全・安心に暮らせる都市環境の向上を図るものである。 なお、広域医療施設等へのアクセス道路については、一体的に機能する(都)河辺高野山西線の供用開始予定が平成30年度であるため、本計画期間中の接続は困難な見通しであるが、接続できない間も県道上横野兼田線から広域医療施設等への歩行経路として有効に機能するため早期の整備が求められている。
将来ビジョン(中長期)
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年3月に策定した津山市都市計画マスタープランでは、まちづくりのテーマを「歴史と文化を未来へつなぐ緑あふれる環境都”津山」とし、主要目標として①県北の中心都市にふさわしい活力ある都市、②自然と共生するまともある都市、③特色ある資源をまちづくりに活かした魅力的な都市、④子どもから高齢者、障害者等すべての人にやさしい都市、⑤明日を担う人材の育成 の5つを掲げている。 地区別構想の津山市東部のまちづくり方針は、「土地利用の方針」として津山I.C周辺や国道53号沿線に集積している沿道型商業サービス施設や周辺の工業・業務施設を合わせた利便性の高い複合的な土地利用を図ることとしている。また、「安全・安心のまちづくりの方針」として①交通安全対策として事故多発地点や危険箇所における交差点改良や交通安全施設の設置等を関係機関との協力のもとに促進する、②県北唯一の救急救命病院であり圏域の医療拠点である津山中央病院へのアクセス道路の強化や公共交通サービスの向上を図ることとしている。

目標を定量化する指標						
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	
交通事故件数	件/年	地区内市道での人身事故件数	12	平成23年度	9	平成29年度
歩行空間整備に対する満足度	%	主要な歩行経路の歩行空間整備に対する満足度	53.0	平成24年度	47.7	平成29年度
浸水対策面積	ha	地区内の内水浸水対策が必要な面積の削減	38.3	平成23年度	23.5	平成29年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】 著しい交通量の増加に対する交通の円滑化や事故防止対策、安全な歩行空間の確保を行い、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。 ・広域医療機関等へのアクセス道路を整備し、県道上横野兼田線から医療機関等への安全・安心な歩行経路並びに歩行空間を確保する。(※都市計画道路河辺高野山西線が完成した際には緊急車両等の円滑な通行や歩行者等のより安全な通行経路が一体的に確保される。) ・幅員狭小や道路線形が悪いこと等による交通危険箇所の改善。 ・交差点部の路面標示やカラー舗装による事故防止対策並びに主要な歩行経路の路側にカラー舗装を実施し歩行空間を明示する。</p>	<p>【基幹事業】 《道路》 ・市道拠点線 整備事業 ・市道T19号線、市道T32号線 整備事業 《高質空間形成施設》 ・市道T37号線外4路線 路面標示、カラー舗装など</p>
<p>【整備方針2】 地区内に不足している雨水排水対策を実施し誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。 ・急速な開発により不足している地区内の雨水排水機能の確保。</p>	<p>【基幹事業】 《地域生活基盤施設》 ・排水ゲート(ポンプゲート) 整備事業 【提案事業】 《地域創造支援事業》 ・河辺第二雨水幹線 整備事業</p>
<p>その他</p> <p>○交付期間中の計画管理について 交付期間中における事業実施及び調整については、岡山県並びに市内部の関係部局による横断的な組織において計画管理を行う。 なお、事業実施状況や数値目標の達成状況については、広報誌や市のホームページ等を利用し随時市民に公表する。</p> <p>○円滑な事業実施の環境 基幹事業である市道拠点線の整備については、以前から津山中央病院や地元町内会等より早期整備に対する要望を受けており地元関係者等の事業熟度は高い。また、平成23年度から岡山県が事業着手した都市計画道路河辺高野山西線と一体的に機能する道路であるから、同時期に当該事業に着手することで円滑な事業の推進が図られる。</p>	

